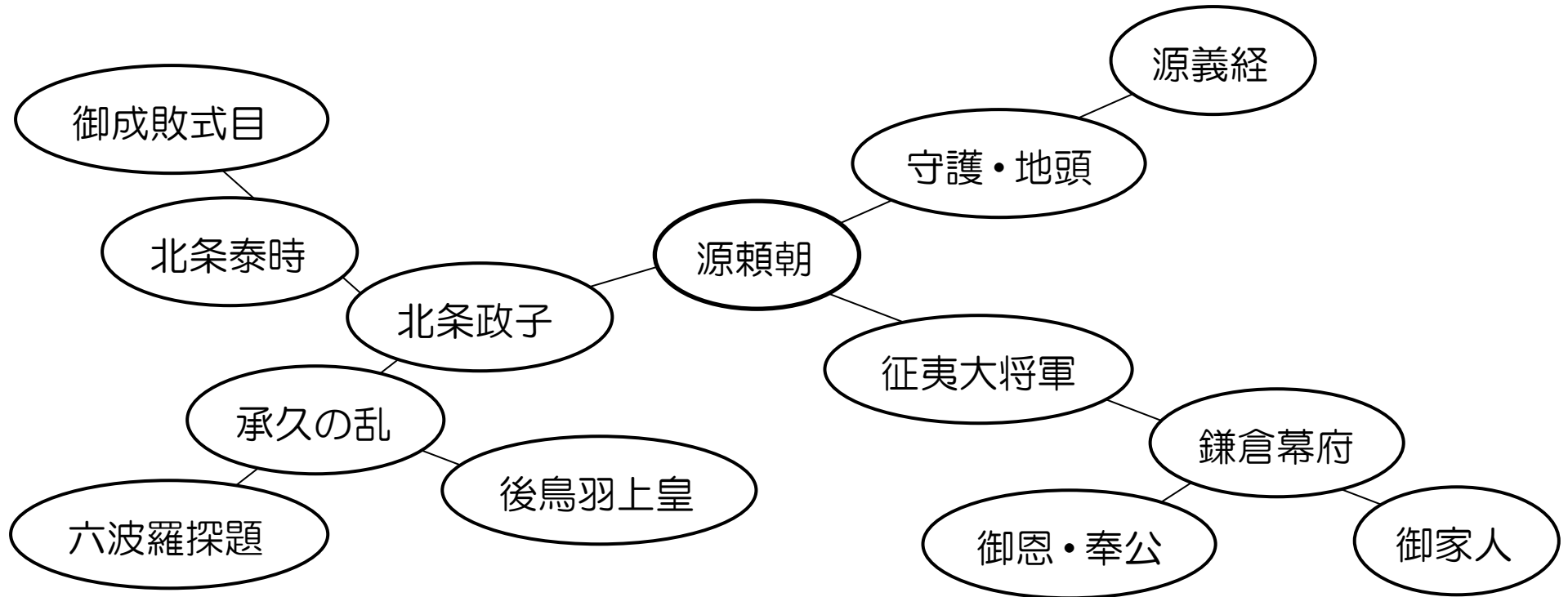


鎌倉幕府の成立と発展 ～源頼朝を中心に考える～ 教科書 P58～P61



○ウェビングマップを言語化・・・

・源頼朝は征夷大將軍となり、鎌倉幕府を開いた。また弟の源義経を捕らえるために守護・地頭を配置した。鎌倉幕府を支えたのは、御恩・奉公の組織である。御恩は御家人に將軍が領地を分け与える、奉公は御家人が幕府のために戦うということ。お互いに支え合う関係性が出来上がった。しかし頼朝の死で状況が大きく変わる。武士の政治から天皇の政治に戻そうと後鳥羽上皇が立ち上がる。頼朝の妻、北条政子は御家人に“今まで頼朝から受けた御恩を今こそ思い出し、幕府のために立ち上がりなさい”と訴えた。それにより、承久の乱は幕府側の勝利で終わり、天皇監視組織として六波羅探題が設置された。その後、北条氏の政治となり北条泰時が御成敗式目を制定し、政治を始めた。